

2022年度 関東学生水球リーグ戦水球【戦評】

会場：慶応義塾大学

【2022/5/15】

この試合のプレー集計

1部

筑波大学 9

3	—	3
2	—	3
2	—	3
2	—	4
PSO		

13 専修大学

審判:

山崎 昇
黒崎 千智

筑波大学	27	SH数	41	専修大学
	5	速攻数	7	
	12	ST・SB	13	
	7	SH・P誘発アシスト	10	
	55%	GK阻止率	50%	
14	EX反則数	3		

ST・SB:ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

1P

双方互角の戦いでスタートしたが、専大センター⑫浦への筑波大側の対応はやや後手を踏んでいて、このセンター位置での攻防で専大側が優勢の立ち上がり。その中、やはり⑫浦がセンターで退水を誘発し、そこを②小見が先制。筑波大は専大の退水シュートをGK⑬木之下セーブから速攻に出て⑦嶋本が決めて追いつく。両チームともに持ち味を發揮しての序盤であった。しかし、専大⑫浦の存在感は大きく、筑波は手こずる状況で筑波3-3専大で第1ピリオドを終えた。

2P

専大⑫浦へのマークに対処している中、専大②小見がトップからシュートを決めて専大がリード。この場面のように、センターDFへ傾斜させ、シュート力のある②小見をフリーに動かせる専大側の攻撃は筑波に大きな圧力となっていた。そうしたプレッシャーからこのピリオド、筑波はペナルティを含む4本のエクスタルージョンを喫して専大ペースで前半を折り返した(筑波5-6専大)。

3P

筑波は⑩松原のカウンター攻撃で同点に追いつくが、またもやシュートレンジに位置する⑩渡邊にトップ位置から決められるなど、センターDF対応に翻弄される状態が続いた。じっくり攻める専大の圧力に押されて、このピリオドも退水を連発してしまい、シュート力のある②小見に連続で決められてさらに点差を広げられた。そうした焦りからか、筑波のエース⑫眞板がレッドカード。さらに劣勢感が強まって第3ピリオドを終えた(筑波7-9専大)。

4P

焦りの出た筑波のコントラ反則から退水を奪った専大は、⑤大江が決め3点差に広げて安全圏に。その後は、専大側が余裕の展開で試合を支配し、特に攻撃リズムの起点となった⑤大江のプレーが効果的で、筑波9-13専大と専大が快勝した。

専大の誇る2枚のセンター⑫浦、⑦久保の存在感が筑波DFを翻弄し、マークが甘くなったところをシュート力のある②小見が動いて得点するといった(②小見は6得点をマーク)、専大得意のパターンが威力を發揮したゲームとなった。これでリーグ戦の主役に専大が躍り出るようになった。